

いよいよ出発、感謝の気持ちで「行ってきます!!」

荷物は無事に送りました。あとはこの土・日で体調を崩さないようにするだけです。

昨年 12 月に修学旅行実行委員を組織してから、5 ヶ月間の準備を経ての出発。この間、多くの方々に支えられて皆さんの修学旅行は実現します。

中でも実行委員は、自分の時間を削って修学旅行のために準備を行ってきました。裏方の仕事は、うまくいっている時は外からは見えません。逆に、実行委員会の姿が目立つのは、何かもうまくいっていない時なのです。皆さん、修学旅行の最終日に、近くの実行委員に「お疲れ様」と伝えてあげてください。それは、「私はあなたが一生懸命に仕事をしていたのを見ていましたよ、知っていますよ」という意味があるのです。

そしてもちろん、皆さんの家族の支援を忘れてはいけません。「お金」という支援、すごいですよね。大変なことです。皆さんは、友だちから「旅行に行くんだけど 10 万円貸してくれない?」と言われて貸しますか? 貸しませんよね。家族だから出すんですよ。

私たちの世の中では、「もらったものは返す」、これがルールです。お土産でも、善意でも、もらったものは返す。そうして初めて、立場が対等になります。家族であってもそれは同じ。いつか、必ずお返しなさい。その時皆さんは「大人」と呼ばれる存在になるんですね。

見つけよう、自分の将来・自分のモデル

修学旅行の隠しテーマは、「自分の将来とのつながり」を探ること。これから皆さんが生きていく上での目標となるような、モデルとなるようなものを見つけてみましょう。

人間が成長する時に、「あこがれる力」が重要であると齋藤孝先生も語っています。そして常にアンテナを高く伸ばしていると、自分の目指す道、情報が集まってくるものです。

また、自分の頭の中をスッキリさせるためには、話すこと。まとまりがなくともとにかく言葉にしてみましょう。同じ部屋で過ごす友だちとあれこれしゃべっているうちに、考えがまとまってくるものです。修学旅行に行っても「言語活動」ですよ!

修学旅行間近!~あなたの知らない東京 その7

東京は水の町

東京にはたくさんの川が流れています。中には暗渠（あんきょ）となって、外からは見えない川もあります。（渋谷川などはその代表で、雨の日でも無い限り、これが川だとは思わないのでしょうか。しかし、渋谷川に流れ込む源流の一つが、『春の小川』のモチーフだったりします。）

この川を利用して、江戸城までまるで渦を巻くような水運を作り上げたわけです。以前お話しした、汐留（名前からして海ですね）の日本テレビがある場所には、伊達藩の屋敷がありました。仙台から船で送られた米などの産物は、直接屋敷に運ばれると同時に、今度は運河をさかのぼって江戸の町中を流通しました。現在東京では、川を中心とした景観を取り戻そうという動きが広がっています。

また、「水」も東京の売りです。元々江戸は上水道が発達した町でした。江戸の上水道の大本は一番目の井戸、「井の頭」と呼ばれました。『必殺仕事人』の主人公は「主水＝もんど」という名前ですが、これは水源を管理する役目の人を指します。そして「井の頭」を管理する「主水」は、「井の頭を濁らせちゃいけない」ということで、「もんど」と、濁らない呼び方をされました（江戸のしゃれっ気です）。

さて、修学旅行の 3 日間は気温が高そうです。冷たい「東京水」を飲んで、水の町東京に思いをはせましょう。



保護者の皆様へ…修学旅行に行つて参ります

いつも本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。いよいよ修学旅行に出発です。

計画を立てたとは言え、土地勘のない町を自分たちだけで歩くことには困難が伴います。しかしながら、自分たちで解決方法を考えて対処することで、ひとまわり成長して帰ってくることでしよう。

この 2 日間、けがや体調不良に気を付けて過ごさせていただいて、5 月 11 日の朝、全員が元気に集合することを心より願っております。